



神戸天然物化学株式会社

2024年3月期第2四半期
決算補足説明資料

証券コード：6568

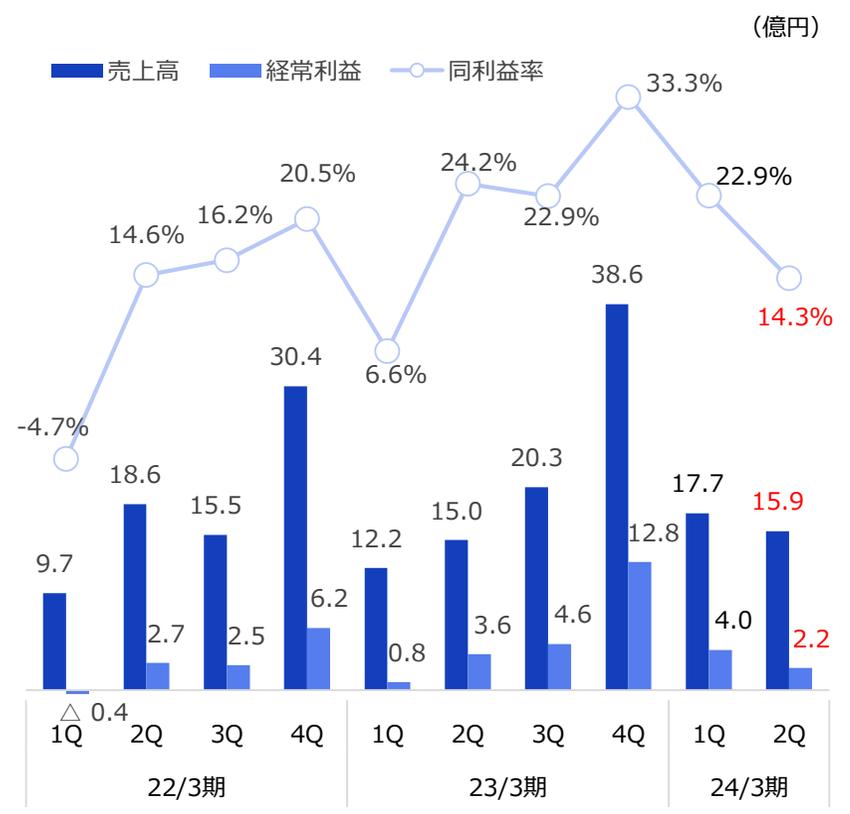
2023年11月10日



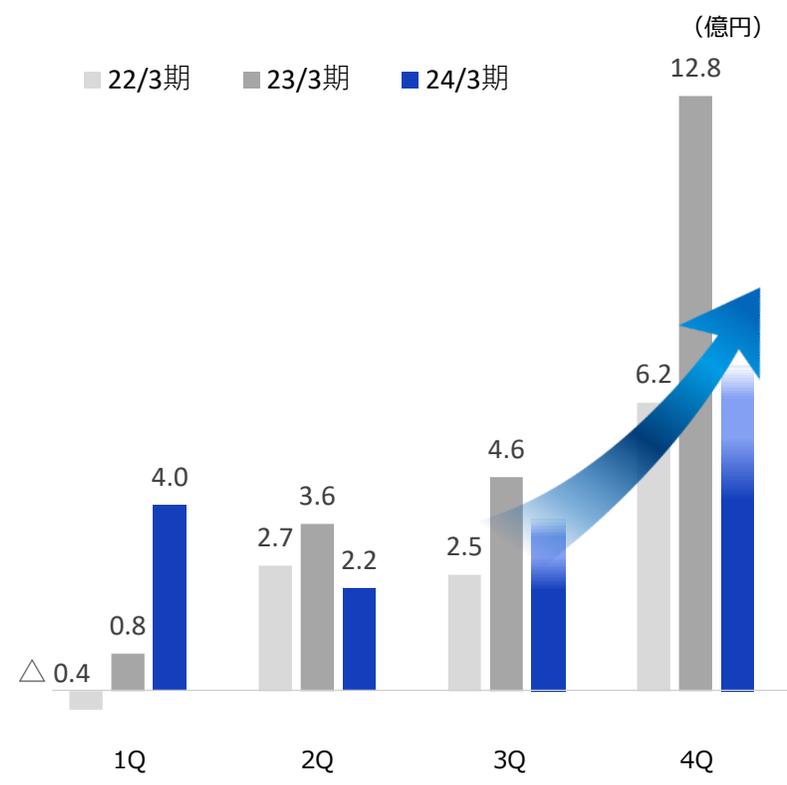
エグゼクティブサマリー①

- 24/3期上期は前年比2桁の増収増益。2Q累計では売上が過去最高を更新
- ただし、2Q発生ベースでは例年と異なり1Q比減収減益
- 通期見通しは据置き。3Qおよび4Qは医薬分野の下期偏重緩和から前年比減収減益となるものの、トレンドとしては2Qをボトムに四半期を追って利益規模は拡大していく見通し

四半期業績の推移



四半期経常利益パターンの想定





エグゼクティブサマリー②

- 上期は医薬分野が極めて好調に推移。バイオ分野も堅調を維持。
- 下期もその構造に変化はないものの、医薬ではやや好調ピッチが巡航速度に落ち着く展開を想定
- 機能材料分野では医薬医療関連は好調も、電子材料は顧客サイドで在庫調整継続

業況マトリックス

(上期実績)				(下期の見通し)			
	機材	医薬	バイオ	機材	医薬	バイオ	
量産	電子材料 在庫調整 医薬医療分野 好調継続	定常品 出荷好調	堅調に推移	電子材料 在庫調整 医薬医療分野 需要好調を継続	定常品 売上堅調	需要順調	
開発	堅調に推移	大型開発品 出荷	堅調に推移	需要堅調を継続	需要・売上堅調 売上、来期へのず れ込み一部懸念	需要順調	
研究	堅調に推移			需要堅調を継続			



1. 2024年3月期2Q決算概要



24/3期2Q累計決算の状況

- 2Q累計売上高は医薬分野が牽引し、前年比24%増収。機能材料分野はディスプレイ関連の在庫調整継続で唯一減収となるも、出荷の集中した医薬分野の躍進が貢献
- 損益面でも増収効果から総じて前年比4割増益を達成。EBITDAマージンは32%
- 対通期見通しの進捗率は売上利益とも約37%。下期偏重型を考えれば想定範囲内の推移

経営成績の推移

(百万円)	2022/3期	2023/3期		2024/3期		前年比較		2024/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計	通期見通し	差異	変化率	
売上高	7,440	2,726	8,628	3,372	8,960	+645	+23.7%	37.6%
機能材料分野	2,858	1,316	2,832	1,186	2,510	△129	△9.9%	47.3%
医薬分野	3,286	838	4,259	1,597	4,850	+759	+90.6%	32.9%
バイオ分野	1,295	571	1,536	587	1,600	+16	+2.8%	36.7%
営業利益	1,094	421	2,163	628	1,700	+206	+49.0%	36.9%
経常利益	1,102	444	2,199	635	1,700	+190	+42.9%	37.4%
経常利益率	14.8%	16.3%	25.5%	18.9%	19.0%	+2.5pp	-	-
当期純利益	643	307	1,542	440	1,180	+132	+43.2%	37.4%
EBITDA*	2,023	855	3,082	1,069	2,657	+214	+25.0%	40.2%
EBITDAマージン	27.2%	31.4%	35.7%	31.7%	29.7%	+0.3pp	-	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



四半期業績推移（発生ベース）

- 2Q発生ベースは例年と異なり1Q比で減収減益。主因は、1Qも高水準の出荷が継続した医薬分野の反動減による減収効果に加え、医薬、バイオ分野でも一時的な製品構成の悪化が影響
- 2QのEBITDAマージンは28%。3割を5四半期ぶりに下回るも、一時的な製品構成差異が要因。均せばほぼ例年並みで、採算面で何らかの構造変化が生じている状況にはない

四半期別経営成績の推移

(百万円)	2022/3期				2023/3期				2024/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	975	1,866	1,556	3,041	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593
機能材料	468	717	718	954	712	603	832	682	610	576
医薬	228	804	588	1,665	284	553	886	2,533	923	673
バイオ	278	344	250	421	224	346	317	647	244	343
営業利益	△46	269	250	621	79	342	459	1,282	404	223
経常利益	△45	273	252	623	81	363	466	1,287	408	227
経常利益率	△4.7%	14.6%	16.2%	20.5%	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%
当期純利益	△104	189	168	389	51	256	320	914	286	154
EBITDA*	168	488	493	872	293	562	695	1,532	621	448
EBITDAマージン	17.3%	26.2%	31.7%	28.7%	24.0%	37.4%	34.1%	39.7%	34.9%	28.1%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

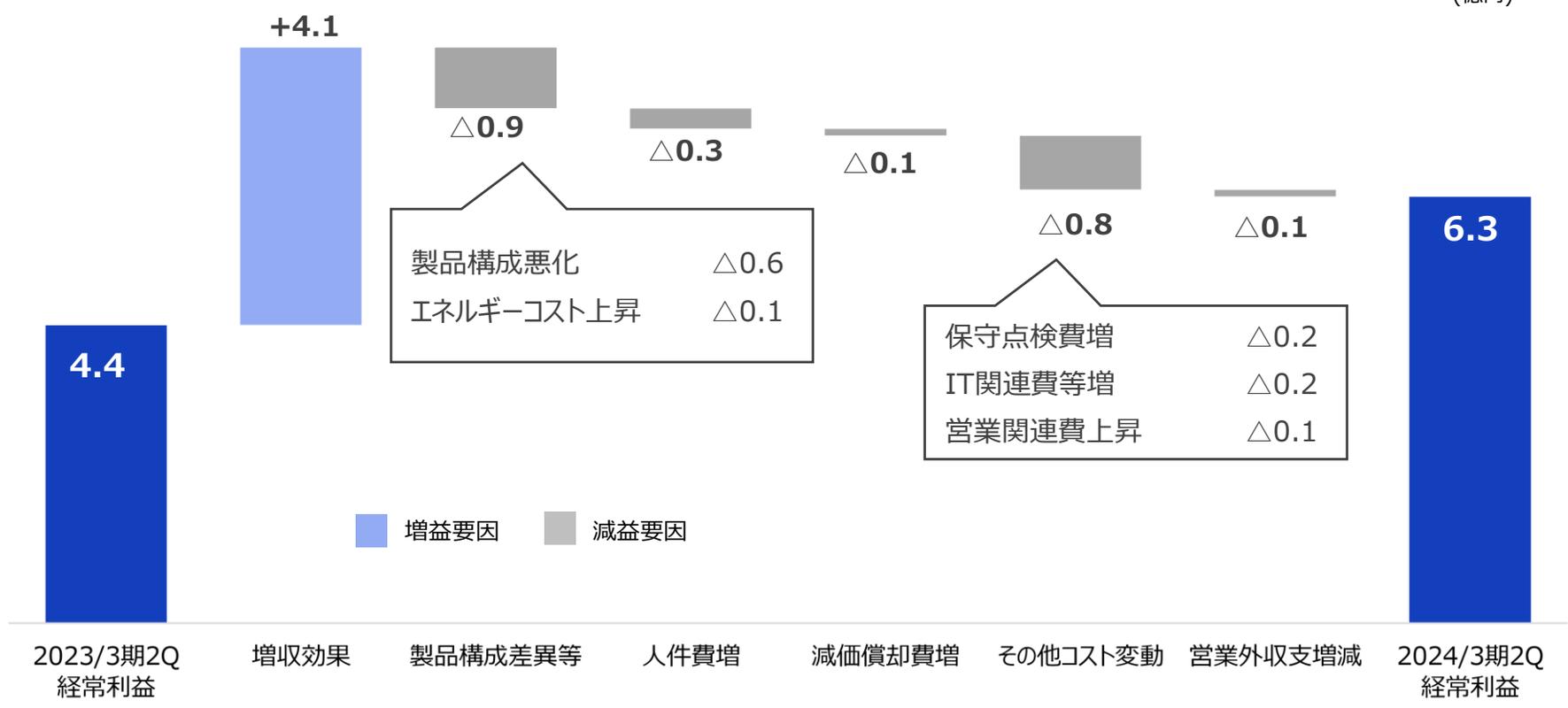


24/3期2Q累計経常利益 増減要因分析

- 売上拡大により、4.1億円の増収効果を捻出。製品構成の悪化やそれに伴う操業負担増、人件費上昇、保守点検費、IT関連費等を吸収し、前年比1.9億円の増益を達成
- 懸念していた原料価格上昇/エネルギーコスト上昇の影響はまだ軽微

経常利益実績 増減益要因分析

(億円)

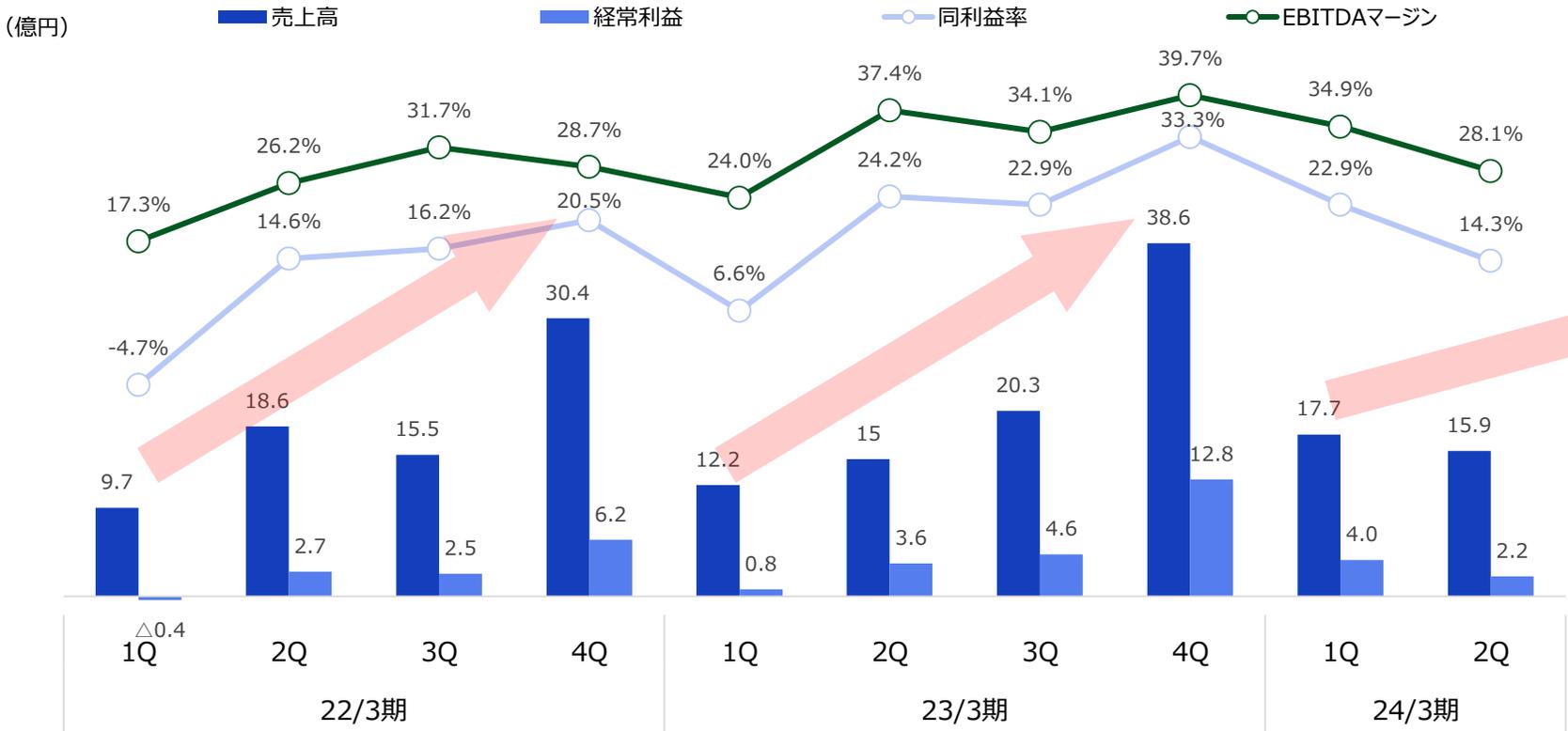




注目ポイント① 四半期業績サイクルは従来とやや異なる推移

- 従来のパターンでは1Qがスロースタートとなるものの、期末に向けて業績改善が加速するもの。基本的にこの構造に変化なし
- ただし、24/3期は1Qが高水準な発進となったため、2Qはその反動が発現。従来のパターンとはやや異なる推移に。これらは期初から想定済であり、サプライズはない

四半期業績の推移

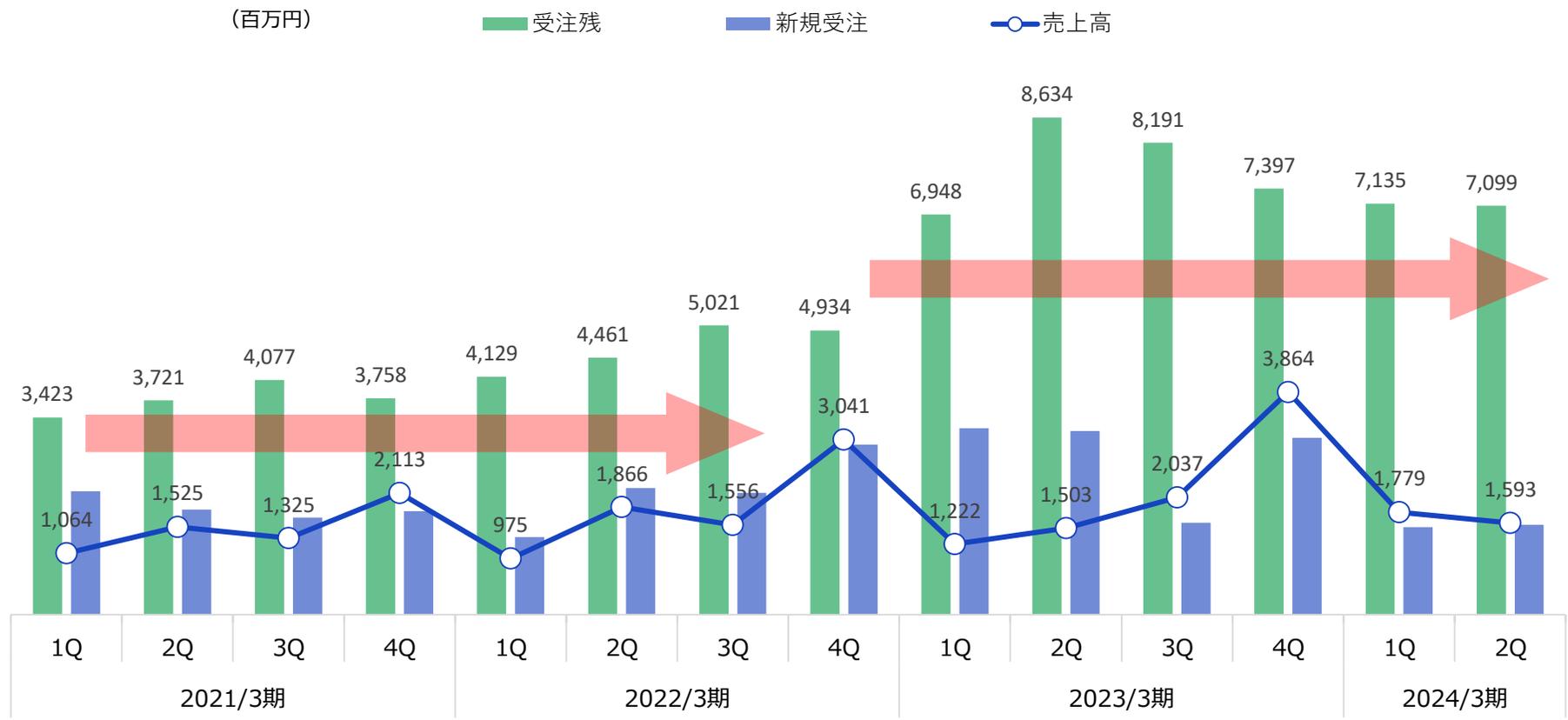




注目ポイント② 受注残は一定水準に収束も需要好調は継続

- 23/3期以降、比較的納期が長い医薬分野の受注増に伴い、受注残の水準が上昇。受託ビジネスながら、業績面での確実性は一段階増してきたものと認識
- ただし、80億円超となった前期の水準は大型の長期案件獲得という特殊要因の影響が大。需要好調に変化はないものの、大型案件は狭間の期間であり受注残は一定水準に収束の見通し

新規受注、受注残と売上高の推移





2024/3期2Q末 財政状態

- 債務の解消進み、総資産はややスリム化。ただし、リードタイムの長い製品対応から在庫は増加
- 出雲工場拡充など設備投資額は7.1億円を計上
- 自己資本比率約85%。更に盤石な財務状況で次なる成長に備える

財政状態の推移

(百万円)	2022/3期	2023/3期	2024/3期2Q	前期末差異
流動資産	6,347	7,459	6,287	△1,171
現預金	1,973	2,297	2,019	△277
売上債権	2,519	2,792	994	△1,797
棚卸資産	1,771	2,279	3,092	+812
固定資産	7,604	7,945	7,989	+44
総資産	13,951	15,404	14,277	△1,127
負債	3,376	3,659	2,179	△1,479
有利子負債	1,676	1,536	816	△719
未払金/未払税	827	1,059	423	△636
純資産	10,575	11,745	12,097	+352
負債純資産合計	13,951	15,404	14,277	△1,127

前期末発生の上
売上債権回収

医薬量産案件の在庫増

設備投資額：7.1億円
減価償却費：4.4億円

有利子負債は順調に圧縮

未払金、未払税
などの支払い進捗

自己資本比率84.7%



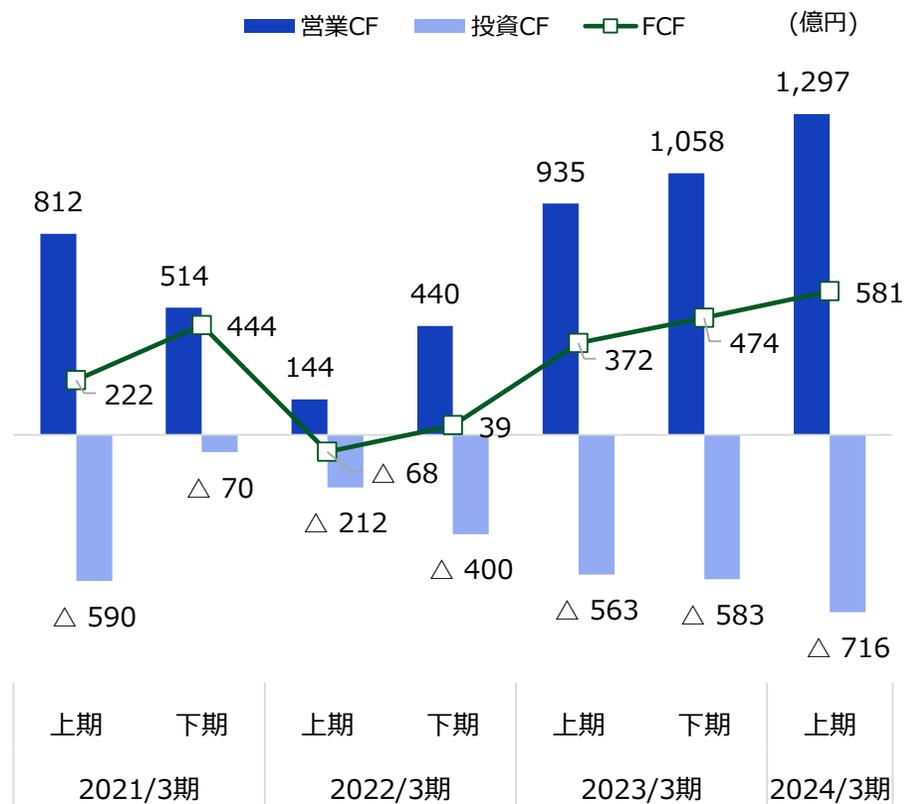
2024/3期2Q累計 キャッシュフローの状況

- 上期もFCFは黒字を確保。設備投資支払は高水準続くも、それ以上の営業CF拡大で吸収。半期13億円の営業CF確保は過去最高
- FCFは借入金圧縮に充当。借入金残高は8億円にまで縮小し、ネットキャッシュは12億円に。これらは生産能力増など将来の成長加速に向けての投資原資となる見通し

キャッシュフロー推移

(百万円)	2023/3期		2024/3期	
	上期	下期	上期	前年比
営業CF	935	1,058	1,297	+362
税前当期利益	444	1,727	635	+190
減価償却費	433	485	441	+7
売上債権/仕入債務増減	1,563	△1,808	1,793	+229
棚卸資産増減	△937	429	△ 812	+125
投資CF	△563	△583	△ 716	△153
固定資産取得	△584	△584	△ 715	△131
FCF	372	474	581	+208
財務CF	△726	202	△ 858	△132
借入金増減等	△419	△280	△ 719	△300
配当金の支払額	△194	△77	△ 138	+55

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2. 2024年3月期 下期見通し



2024/3期 下期見通し

- 通期見通しは据置き。上期は前年比大幅増益となるも、想定範囲内の進捗ピッチ
- 一方、下期のみでは前年比で減収減益と想定。特に懸念材料はないものの、原料調達やエネルギーコストなど不透明要因を勘案し、現時点では保守的なスタンスを継続

2024年3月期見通し

(百万円)	2022/3期 下期	2023/3期			2024/3期			
		上期	下期	通期	上期	下期見通し	下期 対前年差異	通期
売上高	4,598	2,726	5,901	8,628	3,372	5,587	△313	8,960
機能材料分野	1,672	1,316	1,515	2,832	1,186	1,323	△192	2,510
医薬分野	2,253	838	3,420	4,259	1,597	3,252	△169	4,850
バイオ分野	671	571	965	1,536	587	1,012	+48	1,600
営業利益	871	421	1,742	2,163	628	1,071	△670	1,700
経常利益	875	444	1,754	2,199	635	1,064	△690	1,700
経常利益率	19.0%	16.3%	29.7%	25.5%	18.9%	19.0%	△10.7pp	19.0%
当期純利益	558	307	1,235	1,542	440	739	△495	1,180
EBITDA*	1,366	855	2,227	3,082	1,069	1,588	△639	2,657
EBITDAマージン	29.7%	31.4%	37.7%	35.7%	31.7%	28.4%	△9.3pp	29.7%

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

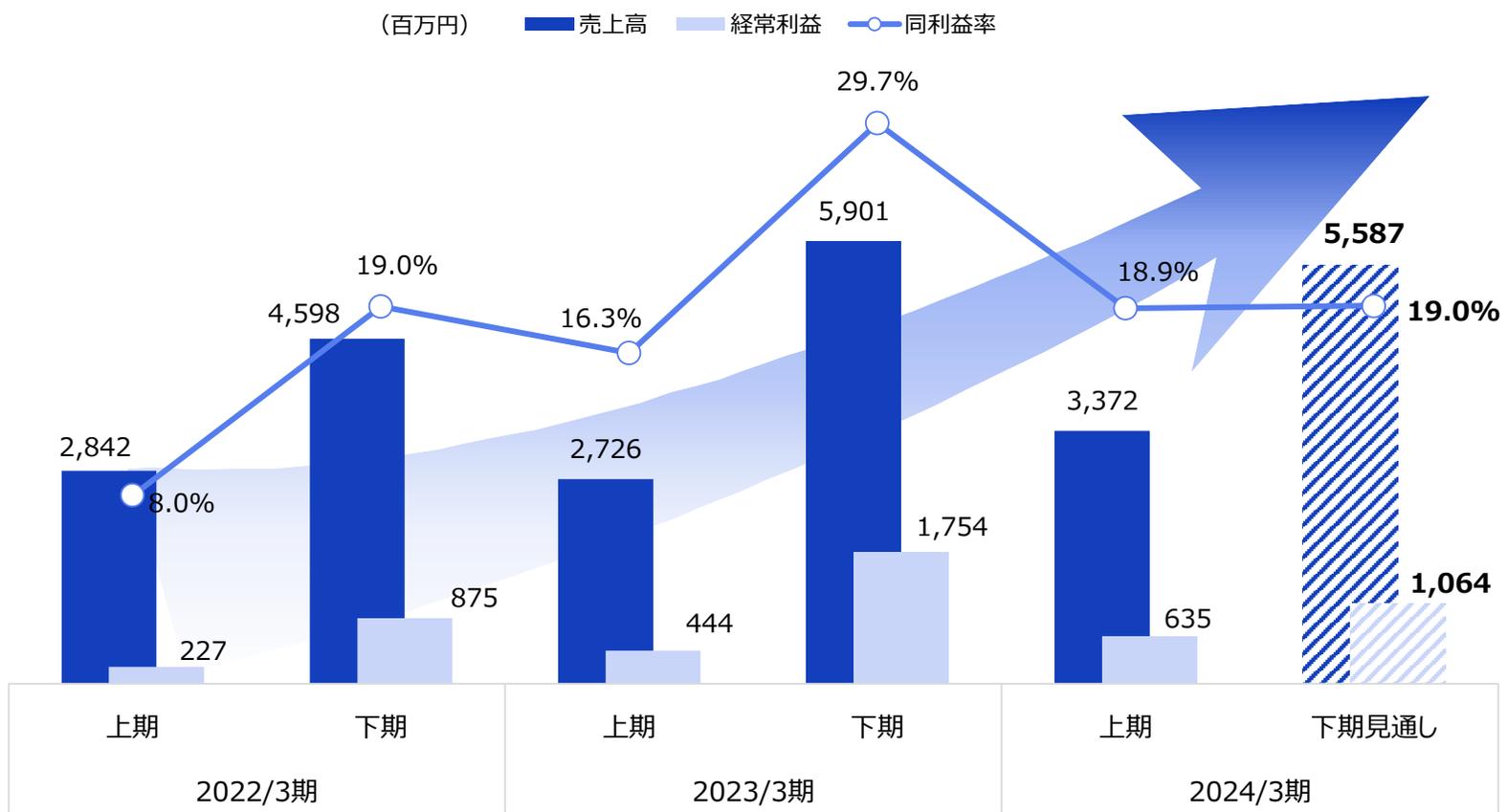




半期ベースでは従来のパターンに変化なし

- 24/3期下期は上期比増収増益と例年通りの下期偏重サイクルを踏襲する見通し。基本的な事業構造に変化はなし
- なお、下期の経常利益率は19%と上期並みの水準となる見通し。これは製品構成差異の影響に加え、資材価格上昇リスクを織り込んだことに拠る

半期別業績推移



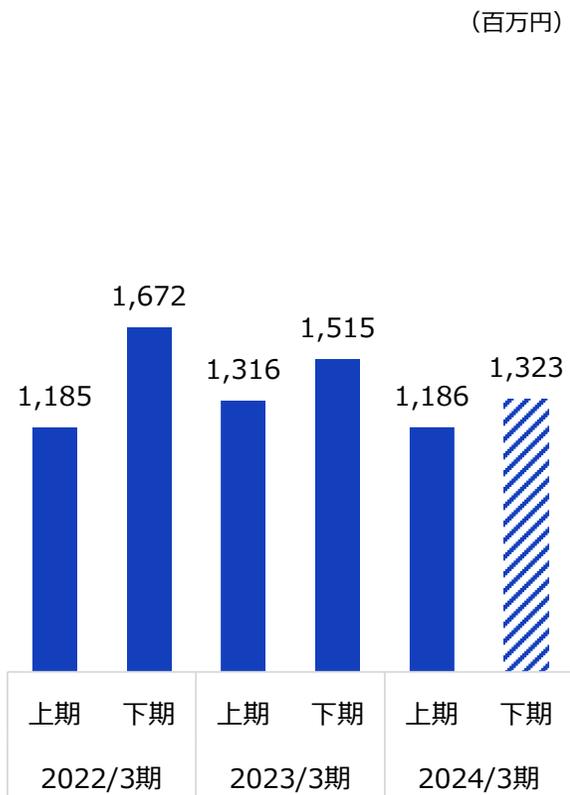


分野別売上高推移

- 下期は、出荷の集中する医薬分野の売上が大きく伸長。全体的に下期偏重トレンドは変わらず。ただし、当期は下期偏重の度合いは緩和される見通し。バイオは徐々に下期偏重の傾向を想定
- 機能材料は緩やかな需要の回復基調を想定。但し、ディスプレイ関連製品では在庫調整が長期化しており、回復ピッチはまだ鈍い

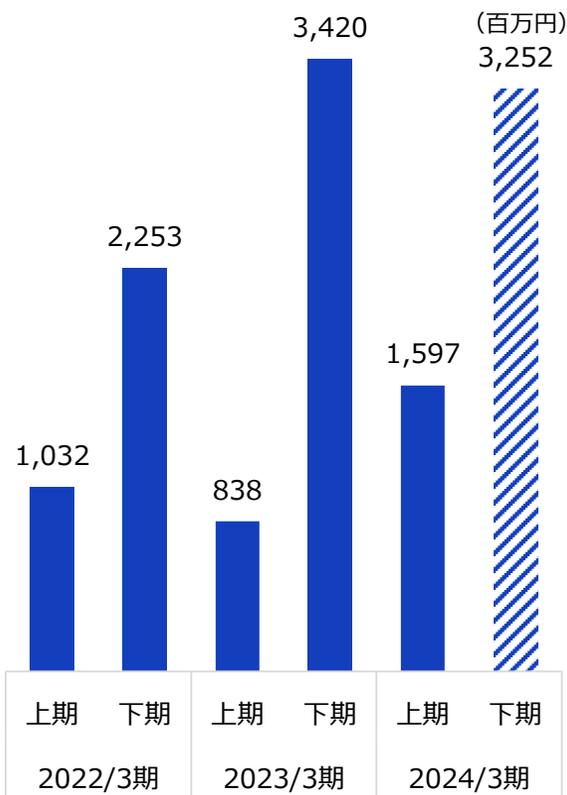
機能材料分野

(百万円)



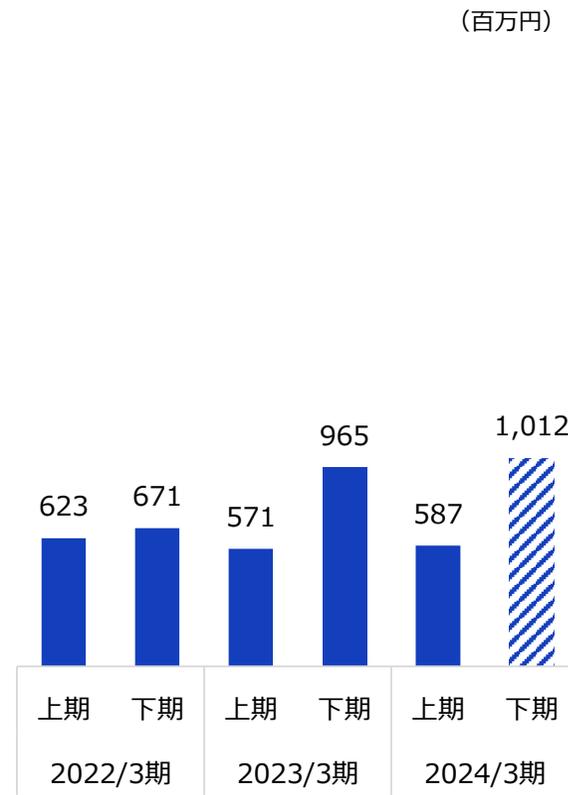
医薬分野

(百万円)



バイオ分野

(百万円)

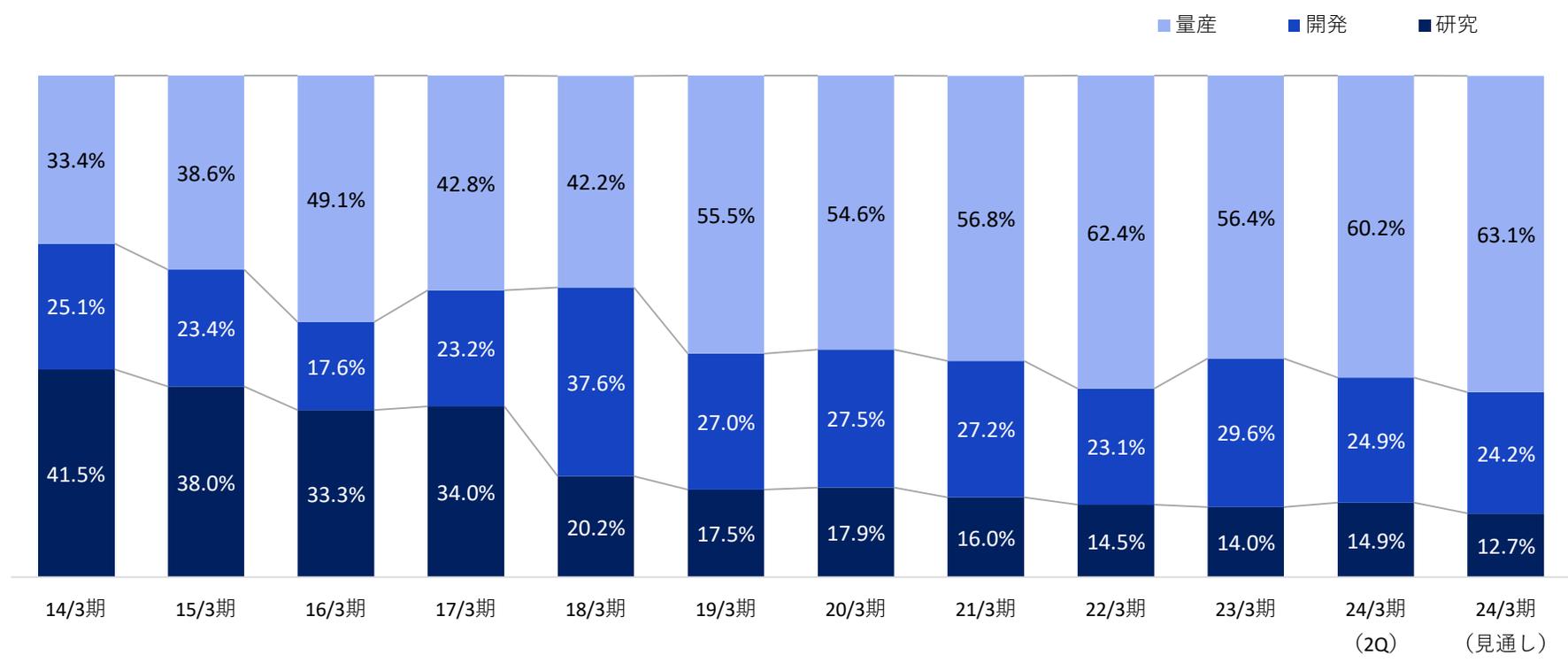




ステージ別売上状況

- 量産ステージ案件の売上構成比は再び6割台乗せ。規模の経済が期待できる量産案件の拡大により、望ましい売上ポートフォリオに回帰
- 通期売上のステージ別見通しは変更せず。量産ステージ売上構成比はさらに拡大の見通し

ステージ別売上比率



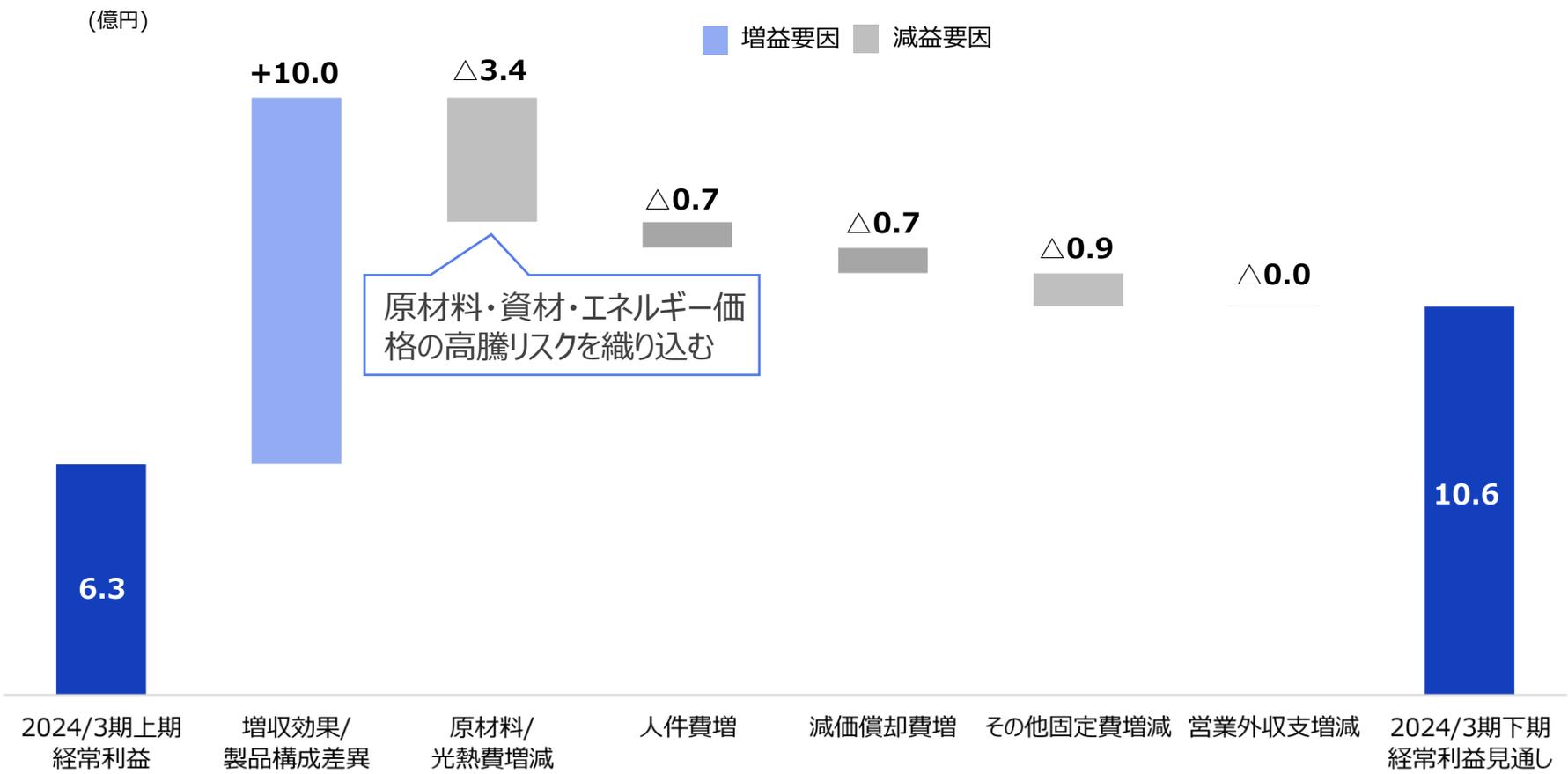
*24/3期の見通しは23/3期に開発ステージとしていた製品が量産ステージにステージアップしたため、「2023年3月期 決算補足説明資料 P13 2-2. ステージ別売上見込」で想定していたステージ別割合から変更



24/3期下期 経常利益増減要因分析見通し

- 下期経常利益は上期に対して+4.3億円の増益を想定
- 原材料やエネルギーコストの増加や投資拡大による償却負担増加などの影響を織り込む。下期偏重型売上の増収効果が増益の牽引役となる見通し

2024年3月期上期対下期 経常利益増減要因分析見通し

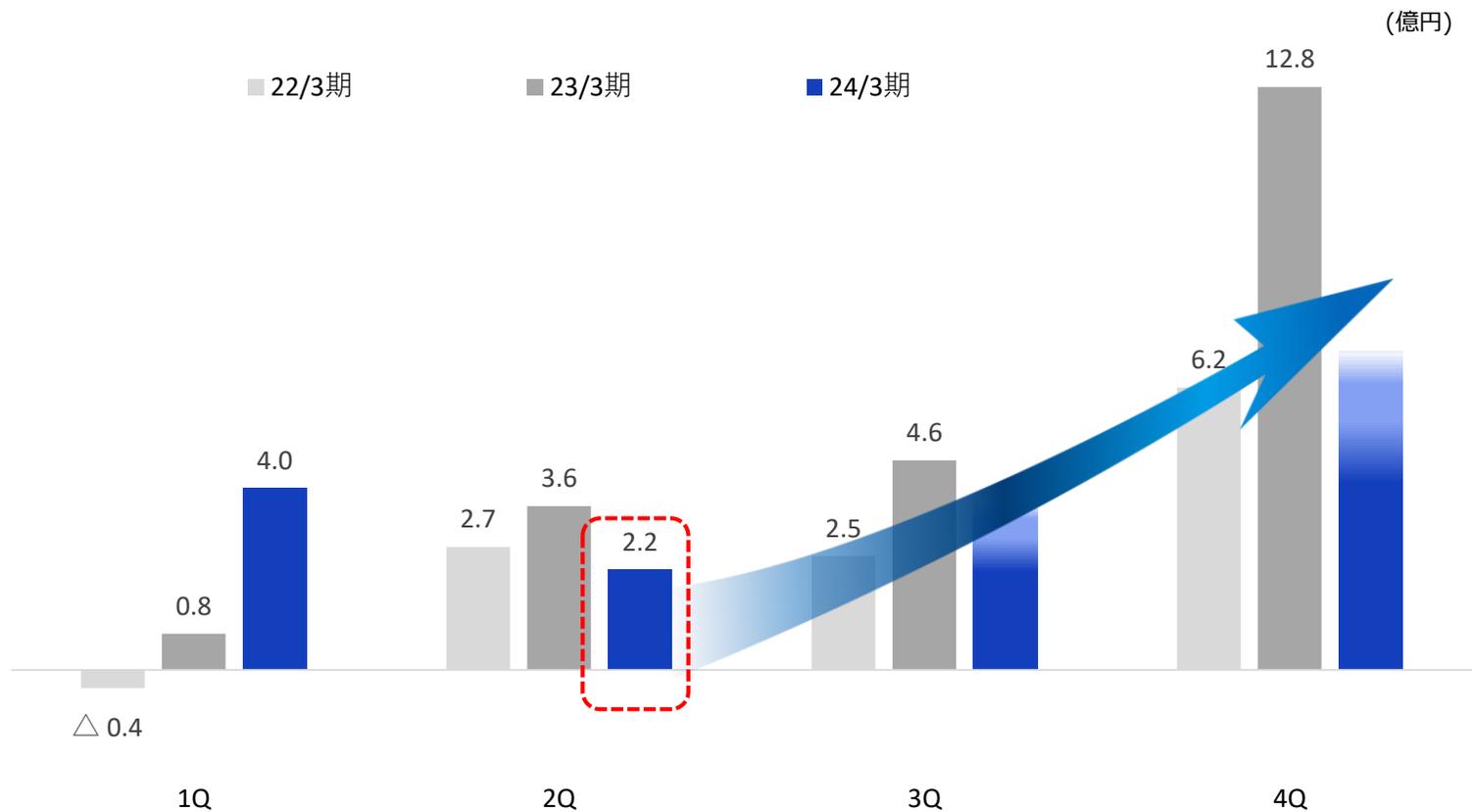




四半期別業績見通し

- 2024/3期における業績ボトムは2Qとなる見通し。下期は3Qより期を追って利益規模は拡大へ
- ただし、3Q時点の利益拡大ピッチはまだ本格化には至らないと想定。例年通り、やはり4Qが期間損益の帰趨を決める最重要四半期となる見通し

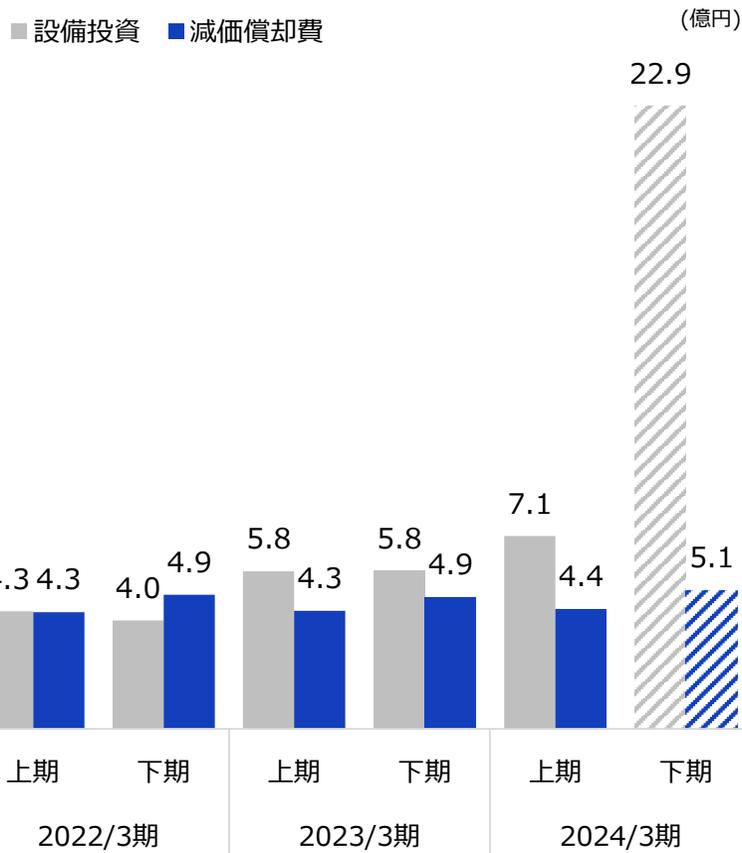
四半期経常利益パターンの想定



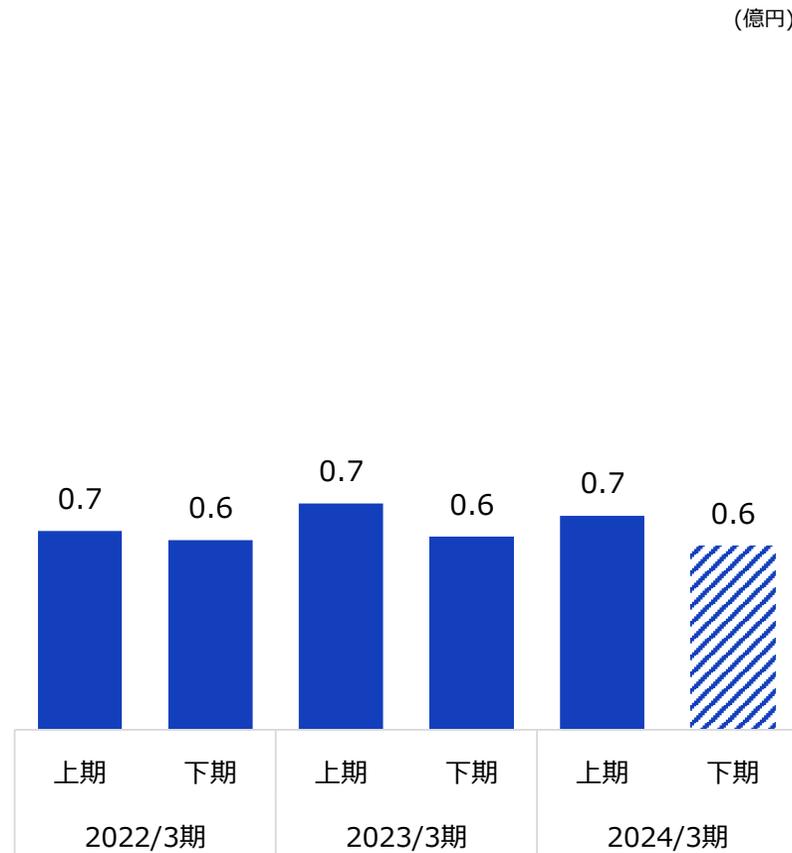


- 出雲工場、バイオリサーチセンター拡充に向けての設備投資（支払ベース）は今下期から本格化。高水準の投資は今後2年は継続する見通し
- 研究開発も、中分子・低分子医薬などバイオ・医薬領域を中心に継続する計画

設備投資と減価償却費の推移(CFベース)



研究開発費の推移





- 配当方針を踏まえ、2024/3期は中間配当15円、期末配当15円の合計30円の2円増配を計画。ただし、配当支払タイミング適正化の観点から、中間配と期末配を同じ水準に
- 24/3期は減益見通しながら、配当の安定性を重視。安定配当の目安は当面DOE2%程度を想定

配当方針

企業価値拡大に向けた投資余力を総合的に勘案し、業績状況に則した安定配当を継続実施

	2022/3期	2023/3期	2024/3期計画	前期差異
1株当たり配当金	25円	28円 (2Q:10円、期末18円)	30円 (2Q : 15円、期末 : 15円)	+2円
EPS	82.78円	200.06円	153.05円^{*1}	△47.01円
DOE ^{*2}	1.9%	2.0%	2.0%	±0.0pp
配当性向	30.2%	14.0%	19.6%	+5.6pp
総還元性向	30.2%	21.2% ^{*3}	19.6%	△1.6pp

*1 : 2024/3期EPS算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年3月31日現在の発行済株式数を使用

*2 : DOE (自己資本配当率) = 年間配当総額/自己資本

*3 : 2022/5/16に自社株買い実施



3. トピックス



- 積極的なリクルート活動を展開。急成長の医薬分野における補強に加えて、2026/3期以降の新工場2棟稼働へ向け人員確保に注力
- 新社長のメッセージや出雲工場見学など当社への理解を深めていただくためメディア活動にも注力

1 DAY企業ツアー-in神戸

- 神戸医療産業都市推進機構が主催する医療産業、研究・開発職に興味を持つ方の就活を応援するプログラムに参加。大学生・大学院生に当社の見学頂き、理解を深めて頂きました。



URL: <https://www.hataraku-kbic.fbri.org/event/report05/>

メディア向け工場見学会

- 9/7にメディア向け工場見学会を当社の基幹工場である出雲工場で行いました。新聞社3社にご参加いただき、当社の量産ステージにおける強みをご理解いただきました。取材内容は以下の新聞や雑誌に掲載されました。

- ✓ 化学工業日報（9月29日掲載）
- ✓ 山陰中央新報社（山陰経済ウィークリー10月3日号）
- ✓ 日刊工業新聞（近日掲載予定）

ジョブカフェ島根に紹介

- しまね JOB Girl 2023
女子学生リポーターが選ぶ女性が輝くしまねの企業として当社が取り上げられyoutubeに公開されました。



URL: <https://youtu.be/I3zhcqRLOIY?si=cfEcmFj9yNIY4Ea5>

「社長名鑑」

- 株式会社メディアタイムズが展開する「社長名鑑」に新社長真岡のインタビュー記事が掲載されました。大学を卒業後、当社に入社するまで、さらに社長になるまでの経緯を当社の強みや今後に対する意気込みについて掲載いただいております。



URL: <https://shachomeikan.jp/article/2096>

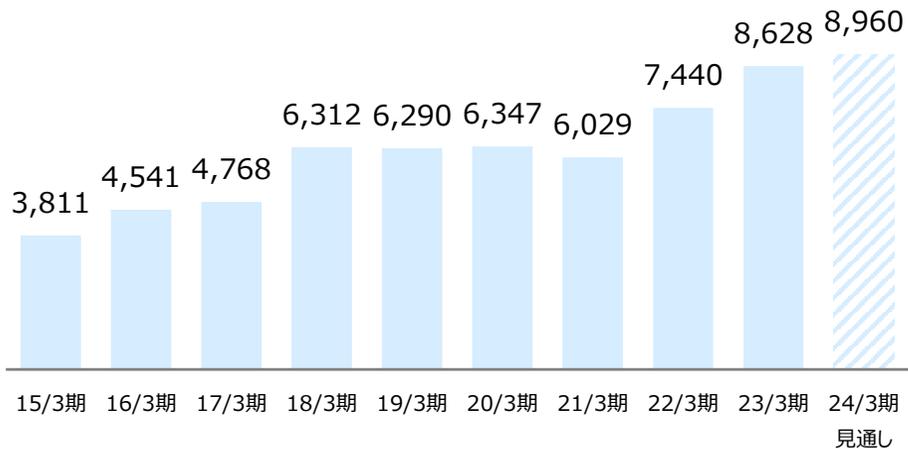


4. Appendix



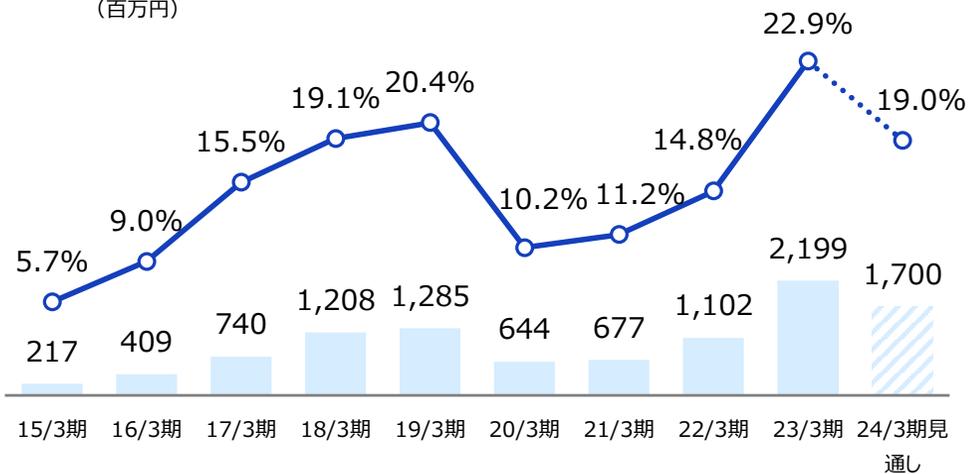
売上高

(百万円)



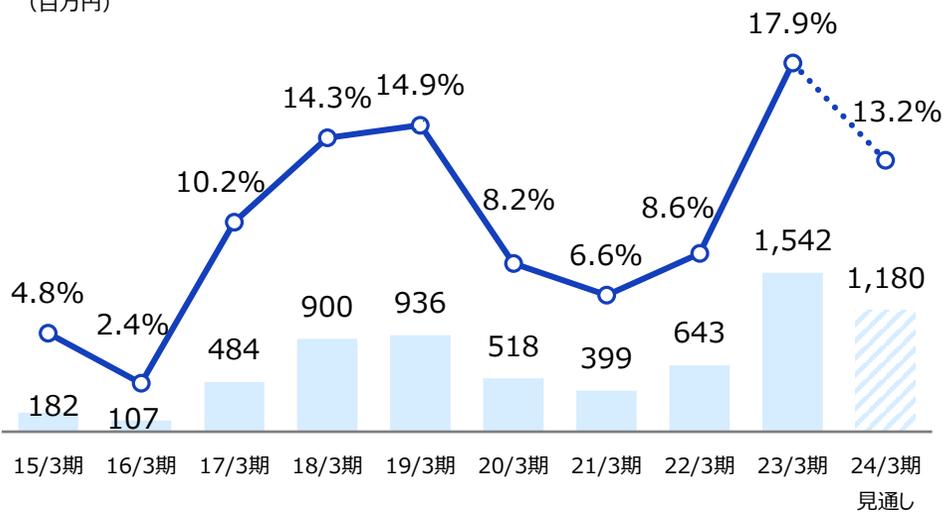
経常利益・経常利益率

(百万円)



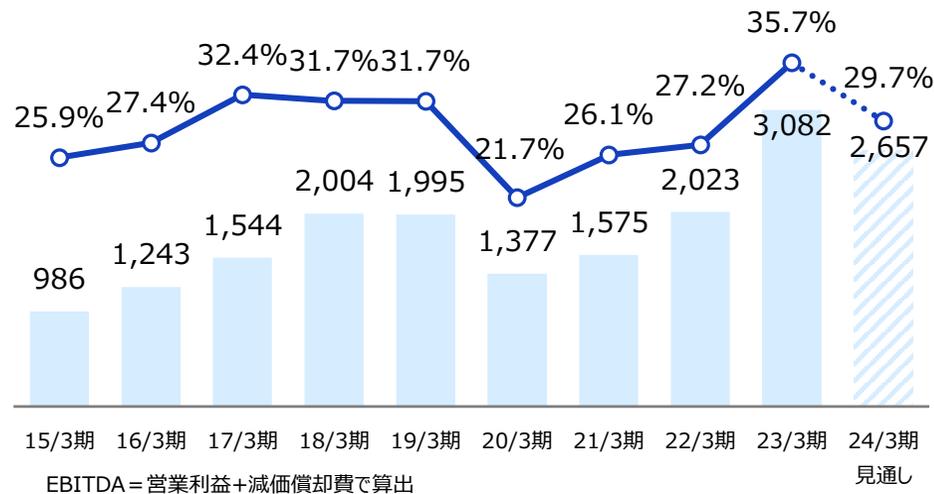
当期純利益・当期純利益率

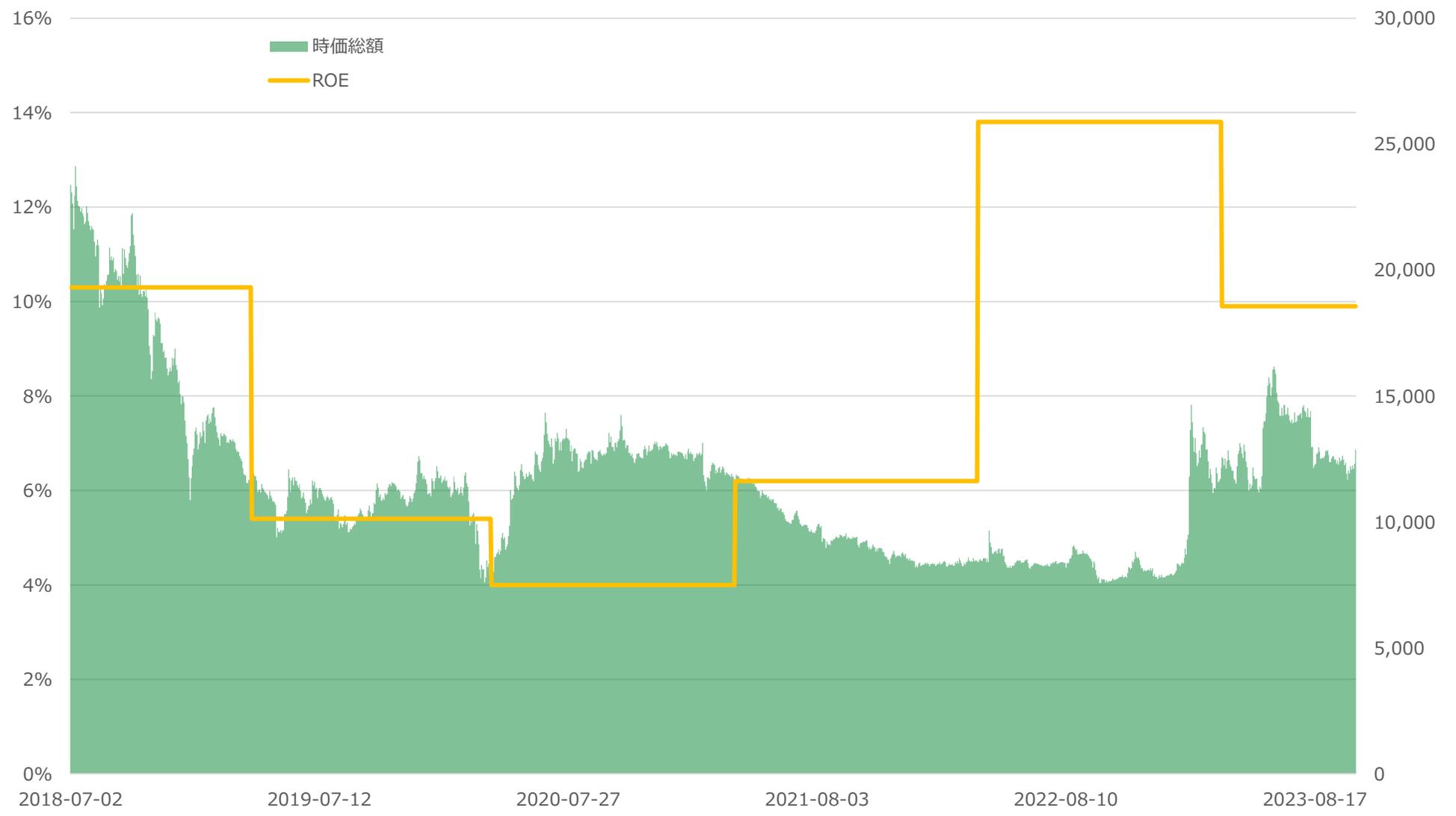
(百万円)



EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)





項目 (単体)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期2Q
売上高 (百万円)	6,290	6,347	6,029	7,440	8,628	3,372
経常利益 (百万円)	1,285	644	677	1,102	2,198	635
当期純利益 (百万円)	936	518	399	643	1,542	440
EBITDA (百万円)	1,995	1,377	1,575	2,023	3,082	1,069
売上高経常利益率	20.4%	10.2%	11.2%	14.8%	25.5%	18.9%
売上高当期純利益率	14.9%	8.2%	6.6%	8.6%	17.9%	13.1%
EBITDAマージン*	31.7%	21.7%	26.1%	27.2%	35.7%	31.7%
現金及び預金 (百万円)	3,072	1,476	1,962	1,973	2,297	2,019
有利子負債 (百万円)	978	1,428	1,443	1,676	1,536	816
純資産額 (百万円)	9,454	9,827	10,120	10,575	11,746	12,097
総資産額 (百万円)	12,002	12,770	12,780	13,951	15,404	14,277
自己資本比率	78.8%	77.0%	79.2%	75.8%	76.2%	84.7%
配当性向	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	14.0%	-
役員・従業員数	270人	285人	293人	299人	300人	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



研究開発事例 (抜粋)

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子 医薬	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度～ 2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度～ 2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度～	—	—
	創薬手法開発	液-液相分離を正常化する核酸医薬によるFTLD治療法開発	2021年度～	名古屋大学 京都大学	AMED
低分子 医薬	特許出願 ジェイファーマ(株) ライセンス契約	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニン-バソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度～ 2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度～	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度～ 2016年度	神戸大学 等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度～ 2020年度	産総研 等	AMED
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発 (助成事業/委託事業)	2016年度～ 2020年度	キリン(株) (株)竹中工務店 味の素(株) 等	NEDO



- 1985 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988 ● 岩岡工場開設（兵庫県神戸市）
- 1993 ● 市川研究所開設（兵庫県神崎郡）
- 2001 ● 出雲第一工場開設（島根県出雲市）
- 2002 ● 神戸研究所開設（兵庫県神戸市）
- 2003 ● 神戸工場開設（兵庫県神戸市）
- 2005 ● KNCバイオリサーチセンター開設（兵庫県神戸市）
- 2007 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009 ● 出雲第二工場開設（島根県出雲市）
- 2013 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
- 2014 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018 ● 東証マザーズ上場
- 2019 ● 本社・神戸研究所開設・移転
- 2020 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
- 2022 ● 東証グロース市場に移行
- 出雲第二工場品質管理棟を建設
- 2023 ● 出雲第一工場立体自動倉庫（W-11）を建設





< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp